

地域住宅生産者グループ 宮城の伊達な杉の家を創る会
宮城県みやぎ地域型住宅生産・流通ネットワーク

地域型復興住宅の名称	対象となる地域
宮城の伊達な杉の家	宮城県 県内全地域

グループの特徴とメッセージ

宮城の伊達な杉の家を創る会は 2008 年に宮城県内の地域会社により「良質な木造住宅の供給と地産地消・地域貢献」を目的として結成されました。2009 年～2011 年までは現在の長期優良住宅の基礎となる長期優良住宅先導モデル事業に 3 年連続国土交通省より採択をいただき、これまでの実績として先導事業で 100 棟を超える実績を積んでおります。

これからも、地域の復興と地域貢献を最優先に長期優良住宅を基本とした良質な木造住宅を供給してまいります。

グループの基本情報

グループ名称	宮城の伊達な杉の家を創る会
所在地	宮城県石巻市潮見町 2-3 (株)山大内
結成年月	2008 年 10 月
グループ形態	任意団体
主たる業態	工務店
グループ構成 ※各事業者名 は別紙	合計 40 社 原木供給 : 8 社 製材 : 1 社 建材流通 : 1 社 プレカット : 1 社 設計 : 4 社 施工 : 40 社
代表者名	高橋貞夫(株式会社山大代表取締役社長)
主な受賞歴・活動内容等	<ul style="list-style-type: none"> 平成 20・21・22 年長期優良住宅先導事業採択(実績 106 棟) 平成 23 年木のまち整備促進事業採択(実績 32 棟) 現場見学会開催(年数回)

地域型復興住宅の主な工法・価格帯

主な構造・工法	木造軸組工法
価格帯	1,000～1,500 万円
価格の基準面積	100 m ²
価格に含まない項目	給排水・電気・屋外工事費、外構工事費、設計料、諸手続費

*価格は、地域・プラン、仕様によって異なります。詳しくはお問い合わせください。

グループ全体の施工実績(年間)

建設戸数* (木造戸建)	426 戸
うち地域材活用の住宅	215 戸
うち長期優良住宅	106 戸
グループとしての施工実績	なし 戸
グループとしての地域型住宅の受注可能戸数	50 戸程度
自由記入欄 (上記以外の実績等)	大～小規模リフォーム工事

*参画する施工業者の建設戸数の合計

連絡窓口

担当者名	石川	メール	cad@yamadai.com
電話番号	0225-93-9371	F A X	0225-93-9361
ホームページ	http://www.datenasugi.com/		
自由記入欄			

地域型復興住宅 宮城の伊達な杉の家を創る会
宮城県みやぎ地域宅生産・流通ネットワーク

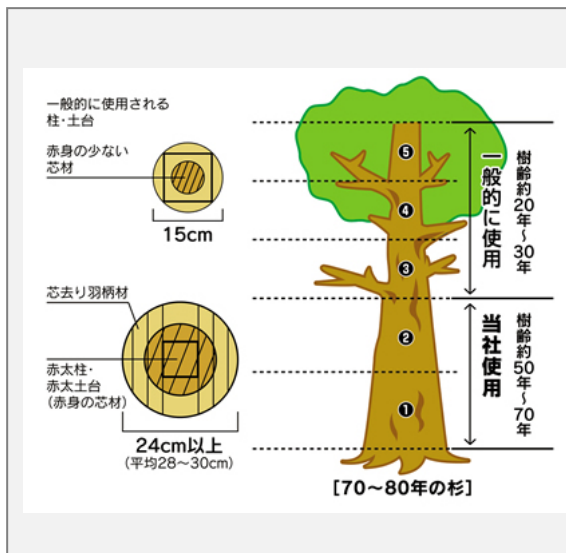
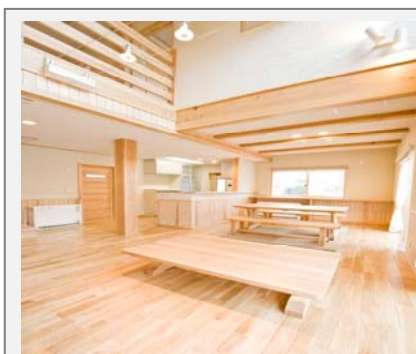
地域型復興住宅のイメージと特徴

■地域材にこだわった伊達な家づくり

- ・ 樹齢 50 年から 80 年（直径約 24 cm 以上）を超える丸太からでる赤みの心材（赤太土台・赤太柱）を使用します。土台・柱はもとより梁材・下地材そして化粧材まで使用可能
- ・ 構造材は全て人工乾燥され含水率 20% 以下にされ将来に渡り狂いの少ない材料がつかわれます

■みやぎの環境にあった「粋」な住まいづくり

- ・ 長期優良住宅を基本とした家づくり
地産地消 地域の材料で地域の職人と地域の工務店が創る家
- ・ 地域材を最大限生かした住環境
- ・ 将来に渡って長く住みつがれる家づくり
- ・ YP21 工法（財住木センター合理化認定）の家



代表的事例の概要

構造	木造軸組工法	床面積	1階：61㎡ 2階：61㎡
設計	山大一級建築士事務所	施工	株式会社 山大
施工費	1850万円（設計費用は除く）	備考	仕様設備により増減あり

設計方法や地域材活用に関する特徴

1. 地産・地消 地域材の持続的な活用
地域毎に地域素材の全面利用を図り、森林組合との連動で地域の活性化を図る。
東北地方における森林の計画伐採と計画植林による安定した木材の供給システムを構築する。
長期優良住宅の推進を図りながら住宅の質と施工技術の向上と安定供給を図る。
2. 安全快適な居住空間
耐震性の向上と温熱環境のさらなる向上を図る

主に活用している地域材について

地域材の名称	宮城の伊達な杉
樹種	杉
産地	宮城県・
認証制度等	合法証明
主に取扱う材種	無垢材
主に取扱う部材	柱材、梁材、羽柄材、下地材、造作材一式
自由記入欄	地域型復興住宅では地域材を活用した住宅を供給します。

性能・仕様および施工方法等に関する特徴

『宮城の伊達な杉の家』では、長期優良住宅を基本仕様とする。設計性能評価で耐震等級 2 等級、劣化対策等級 3 等級、維持管理対策等級 3 等級、省エネルギー等級 4 等級が基本となります。構造材の軸組みは宮城県産木材の『宮城の伊達な杉』を土台（任意）・柱・梁までを使用する。この『宮城の伊達な杉』は樹齢 50 年～80 年の根元から 2 番玉までの直径 24cm 以上の赤太部分の木材で、これを NEO DRY 乾燥にて表面で D20 以下、中心部分で D25 以下に乾燥させたもので、これまとは比べ中心部まで人工乾燥させることにより建築後の割れ・曲がりをより少なくし、構造体や建具・仕上げ材への影響を少なくすることができる。特に乾燥を強化することにより次世代省エネの気密による割れ、曲がりを少なくする。可変性の確保

外壁面を耐力面材とし不足した分を集約化することによりフレキシブルな間取り構成や将来の変化に対応できるよう配慮する



地域住宅生産者グループ 宮城の伊達な杉の家を創る会 宮城県みやぎ地域型住宅生産・流通ネットワーク

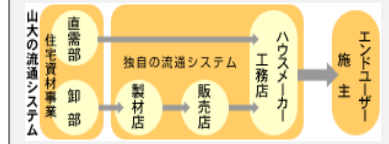
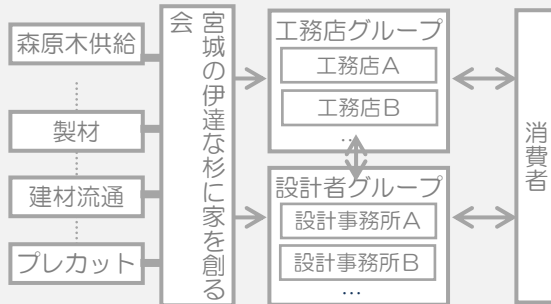
地域型復興住宅の生産供給や流通資材の調達に関する体制

■製材・乾燥・プレカット一体工場加工

製材工場・乾燥工場とプレカット工場が一体化された工場にて製材加工されるので木皮から端材まで乾燥工場の燃料とされ、その工場の木材を使用しプレカット加工された材料を使用することにより環境負荷の軽減となる。羽柄材もプレカット加工することにより現場での廃棄物も減少する。木材を杉に統一することにより（単一樹種のため）改装・解体時のリサイクル利用が容易である。端材・は、チップ化し宮城県内で再用する。



宮城県みやぎ地域型復興住宅生産・流通ネットワークの管理体制



施主からの相談体制および維持管理（アフターサービス）の体制・取組み

■維持保全・更新の容易性の確保

・住宅をスケルトン（躯体部分）とインフィル（設備・内装）に区分し、耐用年数は、スケルトン 100～200 年、インフィルは 20 年に設定する。外壁面に必要な設備配線及び配管は全てシャフトを設け、付近に点検口を設ける。給水・給湯配管はポリ管配管（例 架橋ポリ）とし維持管理では、10 年毎に点検しメンテナンスを行うシステムにより、それを 10 回繰り返すことで、100 年が可能となる。その時々所有者が、責任を持って点検し維持補修していく。適時適切な維持管理と当会オリジナル管理ソフトにより定期的の実施される定期点検（1・6・12・24 ヶ月・10 年の無料点検）とメンテナンスの記録を作成保管し、住宅のトレーサビリティを向上させ基本性能維持の基盤を構築する。第三者機関として「住宅履歴情報」の管理会社の委託管理会社の選択をおこなう（各会員会社での履歴管理もおこなう）。保全計画は 50 年の計画書を保証書と共に施主に説明の上渡す。

第三者管理

